

**山鳥坂ダム・鹿野川ダム環境検討委員会**  
**第9回動植物の保全措置に関する専門部会**  
**議事概要**

日 時 平成26年12月9日 13:00～14:10  
会 場 山鳥坂ダム工事事務所 鹿野川ダム管理庁舎 会議室  
出席者 松山東雲短期大学 名誉教授 松井宏光氏

**1. 山鳥坂ダムにおける環境影響評価及び保全措置の経緯**

- ・ どの段階で保全されたと判断するか決めることは難しい。生態特性を踏まえ、種ごとに保全目標を選定することが重要である。
- ・ 多年草や一年草の場合、開花すれば大体が結実し、実生となる。問題は、実生となった後にその個体が大きく生長できるかということである。
- ・ 例えば、草刈りによって生育が維持される種は人為的な攪乱がかかり続けることで生育が保たれている。その攪乱がなくなれば、すぐに消失してしまうだろう。

**2. 山鳥坂ダム現地調査結果の概要**

**2.1 確認種について**

- ・ ギシギシ属の一種は同定が確定されていないが、マダイオウと同定されると、愛媛県レッドデータブック 2014 に該当する。
- ・ マダイオウは愛媛県内では絶滅したと言われていたが、近年西条で生育が確認された。高知県においても絶滅したとされていたが、近年生育が確認され、新聞で大きく報道された。

**2.2 新たに確認された重要種**

**①ヒメコウガイゼキショウ**

- ・ 本来は湿った水田の水路、畦、放棄水田などでよく見られる種である。
- ・ 本種は県の絶滅危惧Ⅱ類とされている。この科を同定できる人が少ないこと等の理由から確認例が少ないが、県内を探せばもっとあるだろう。
- ・ 人工裸地という確認環境から、何らかのアクシデントで入ったものと推察される。

**②イズハハコ**

- ・ 道路際の法面においてよく観察される種である。
- ・ 他の植物が入れないような乾燥した場所で生育する。遷移が進み、暗くなるといなくなる。
- ・ 最近はアセス関係の調査で見つかることが多く、高速道路の予定地でも確認されている。

**③ホッサモ**

- ・ 愛媛県レッドデータブック 2014 では準絶滅危惧種としているが、県内にはまだ多く生育している種である。

### 3. 山鳥坂ダムにおける植物保全措置の経過及び今後の保全措置の検討

#### 3.1 保全措置の検討結果について

- ・ 保全措置を検討するに際し確認地点数や個体数が多い少ないという判断基準は一般の人には分かりにくいかもしれない。

#### 3.2 保全措置の実施状況について

- ・ ムヨウラン類は腐生ランであり、移植は非常に難しい種である。本ダムで実施している一連のムヨウラン類の保全措置の内容は高く評価している。ムヨウラン類の成功事例は殆どない。
- ・ ムヨウラン類についての移植のノウハウが確立すれば、他の事業などでも応用することが可能となる。
- ・ ミズキカシグサの愛媛県内での近年の確認記録としては、山鳥坂ダムの記録が最も新しい。
- ・ 県内では他の地域で過去の古い確認記録があるが、現在はすでに生育していない。
- ・ 高知県では確認されているので、南予地方で見つかる可能性はあるかもしれないが、現在は山鳥坂が唯一の地点となっている。何とか個体数を増やしていきたい。
- ・ セトヤナギスブタも愛媛県では数が少ない種である。現在、県内の数か所で生育が確認されている程度である。
- ・ 移植のノウハウはまだ確立されていないかと思うが、湿性圃場での再生産を期待している。

### 4. 山鳥坂ダム 平成 26～27 年度の移植等計画

#### 4.1 移植計画について

- ・ 本資料の内容で問題ない。

#### 4.2 今後の保全措置について

- ・ 湿性植物を保全するのは非常に難しい。農家の人からすると、湿った水田は早く乾いた水田としたい。稲作後に麦を生産するため、土地改良を行っている。また、維持管理の軽減のため、畦も草が生えないものになっている。
- ・ 湿性圃場は実験や緊急避難的な場である。ここをいつまでも使うわけにはいけない。永続的な管理ができる場所に移植して、そこで生育できるようになるようなノウハウが必要である。
- ・ 富郷ダムでは土捨て場跡地にビオトープを造成し、湿性植物の保全を行っている。人工的な場を造成して、観光や環境教育の場として利用しながら、希少種を保全する。または、営農水田で希少種が生育できるようなしくみを構築する必要があるだろう。

以 上